

### 3. 平成 27 年度老人保健事業推進等補助事業「認知症の行動・心理症状(BPSD)等に対し、認知症の人の意思決定能力や責任能力を踏まえた対応のあり方に関する調査研究事業」の概要

本研究と主旨の近い先行研究として、平成 27 年度老人保健事業推進等補助事業において、「認知症の行動・心理症状(BPSD)等に対し、認知症の人の意思決定能力や責任能力を踏まえた対応のあり方に関する調査研究事業」(実施主体:国立研究開発法人国立長寿医療研究センター)が実施されている。

この研究では、商業施設における認知症高齢者を取り巻くトラブルの実態が把握されていることから、先行研究として内容を把握し、今年度研究の内容や方法等を検討する際の参考とした。

#### <研究事業の概要>

##### 【事業の目的】

認知症の本人の行動・心理症状(BPSD)や身体合併症等に対して、その治療・介護等における本人の合意を含む意思決定に関わる問題や、行動・心理症状(BPSD)から違法行為に至った場合の責任能力の問題など、問題点の総括的な概観を行い、今後の対応の方向性について検討を行った。

「認知症の人と家族の会会員向けのアンケート調査」及び「小売業の現場における認知症高齢者のトラブル実態やその対応・支援に関する調査」の2つの調査を実施。

#### (1) 認知症の人と家族の会会員向けのアンケート調査

##### 【調査対象と調査方法】

公益社団法人「認知症の人と家族の会」愛知県支部に登録されている会員 661 名。回答数は 196 名(回収率 29.7%)。

郵送による調査。

##### 【調査項目】

本人属性(性別、年齢、世帯構成、要介護度等)のほか、日常生活におけるさまざまな生活支障(トラブル)の内容、頻度について把握した。

※ここでいう「トラブル」とは、認知症が元で起こる「もめ事」あるいは「どう始末をつけたらいいかわからず困ったこと」と定義。

#### (2) 小売業の現場における認知症高齢者のトラブル実態やその対応・支援に関する調査

##### 【調査対象と調査方法】

ピアゴ・アピタ 230 店舗。回答数 221 票(回収率 96.1%)。

店長会議において配布、社内回収。

##### 【調査項目】

店舗の立地環境、高齢のお客さまの来店状況、来店手段、店舗・売場でのトラブル(過去 1 年間)及び高齢者に関わるトラブル、対応困難の状況、高齢者や認知症に関する取り組み、地域との連携等について調査。

※ここでいう「トラブル」とは、来店のお客さまとの「もめ事」または「どう始末をつけていいかわからず困ったこと」と定義。本人が被害にあう場合も、周囲の人達が被害にあう場合もどちらも含む。

## <研究体制>

### ◆委員会

- 秋下 雅弘 (日本老年医学会 副理事長)
- 荒井 由美子 (日本長寿医療研究センター 長寿政策科学研究部部長)
- 五十嵐 禎人 (日本司法精神医学会／日本成年後見法学会 理事)
- 池田 学 (日本認知症学会 副理事長)
- 鎌田 松代 (認知症本人と家族の会 理事)
- 熊谷 頼佳 (日本慢性期医療協会 常任理事)
- 鴻江 圭子 (全国老人福祉施設協議会 理事)
- 齋藤 訓子 (日本看護協会 常任理事)
- 鈴木 邦彦 (日本医師会 常任理事)
- 助川 未枝保 (日本介護支援専門員協会 常任理事)
- 高橋 裕子 (世田谷区高齢福祉部介護予防・地域支援課 担当係長)
- 田口 真源 (日本精神病院協会 理事)
- 田中 稔久 (日本精神神経学会 代議員)
- 東 憲太郎 (全国老人保健施設協会 会長)
- 本田 麻由美 (読売新聞社会保障部 次長)
- 三浦 久幸 (国立長寿医療研究センター 在宅医療研究室 室長)
- 美原 盤 (全日本病院協会 副会長)
- 山本 朋史 (週刊朝日編集部 編集委員)

### ◆作業部会①(日常生活支援)

※認知症の人の日常生活における様々なトラブル、障害について主として社会的行動、人間関係の観点から調査

- 荒井 由美子 (日本長寿医療研究センター 長寿政策科学研究部部長)
- 尾之内 直美 (認知症の本人と家族の会 愛知県支部代表)
- 田邊 寿 (全国社会福祉協議会 伊賀市社協)
- 寺田 整司 (岡山大学 精神科 准教授)
- 東 憲太郎 (全国老人保健施設協会 会長)
- 百瀬 則子 (ユニーグループ・ホールディングス株式会社 環境社会貢献部長 執行役員)
- 山本 優子 (愛知県大府市 認知症地域支援推進員)

### ◆作業部会②(医療・介護等の意思決定支援)

※医療・介護における意思決定について、認知症ではどのような問題があるかの論点整理

- 赤沼 康弘 (東京弁護士会 弁護士)
- 稲葉 一人 (中央大学・法科大学院 教授・元裁判官)
- 小川 朝生 (国立がん研究センター 精神腫瘍科 科長)
- 木澤 義之 (神戸大学院・医学研究科 先端緩和医療学 教授)
- 瀧本 禎之 (東京大学生命医療倫理教育研究センター 准教授)
- 田口 真源 (大垣病院 院長)
- 西川 満則 (国立長寿医療センター 在宅医療部 部長)
- 新田 國夫 (医療法人社団つくし会新田クリニック 院長)
- 山野目 章夫 (早稲田大学・法科大学院 教授・法学者)

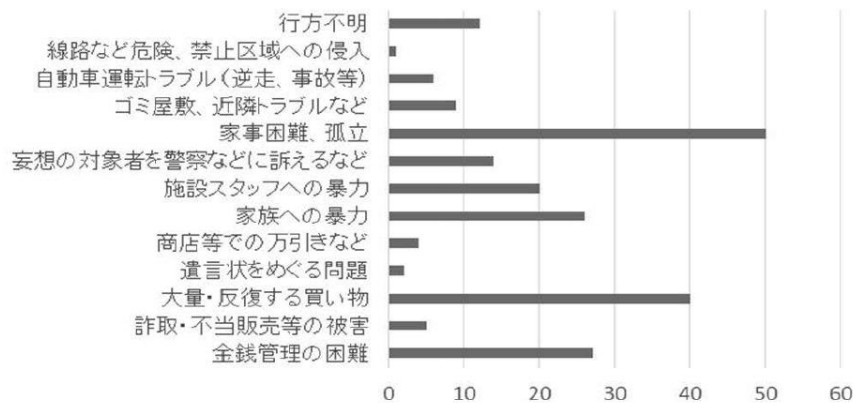
## <結果の概要>

### (1) 認知症の人と家族の会会員向けのアンケート調査結果

#### 対象者の状況

- 男性 84 例、女性 112 例。
- 平均年齢 78.9 歳。発症からの経過は平均 71 か月。80 代女性が最も多く、次いで 70 代男性が多い。
- 世帯構成では夫婦のみの世帯が多く、次いで 2 世代同居が多い。
- 診断名は男女ともに「アルツハイマー型認知症例」が半数以上。
- 受診先は近隣の専門医が概ね 75%。
- 要介護度は、男女ともに要介護 1 が最も多く、次いで要介護 5 が多い。
- デイサービス、ショートステイの利用が多い。
- 介護者は、50 歳～60 代の女性が圧倒的に多い。認知症本人との続柄では男性では妻が多く、女性では夫、義理の母が多い。介護期間は 5～10 年の長期例が多い。

図表 頻度の高いトラブル(月1回以上の例)



図表 調査項目における「トラブル」の分類

#### 【調査項目における「トラブル」の分類】 (報告書P12)

##### A 財産、金銭管理関係

- 金銭管理の困難 (金融機関へのクレーム、たかさんの預金を一度に下したりする、財産を処分してしまうなど)
- 詐欺・不当販売等の被害
- 大量・反復する買い物
- 遺言状をめぐる問題
- その他

##### B 窃盗、暴力など

- 商店等での万引き等のトラブル
- 家族への暴力
- 施設スタッフなどへの暴力
- その他

##### C 家族、近隣との人間関係

- 物盗られ妄想の対象となった人を警察などに訴えるなど
- 家事困難・孤立、認知介護による困難・トラブルなど
- ゴミ屋敷・近隣トラブルなど
- その他

##### D 行動異常からくるトラブル

- 自動車運転によるトラブル(逆走、事故等)
- 鉄道線路等危険・禁止区域への侵入
- 行方不明になった
- その他

出所)「認知症の行動・心理症状(BPSD)等に対し、認知症の人の意思決定能力や責任能力を踏まえた対応のあり方に関する調査研究事業」(実施主体:国立研究開発法人国立長寿医療研究センター)

## 図表 実態調査からの問題場面(実態・対応)の類型化

※場所による分類を加えたもの

### 家族の会アンケートの分類(1)

(報告書P78)

### 家族の会アンケートの分類(2) 〔生活障害整理試案〕

(報告書P79)

#### A 自宅外で、命に係わる問題を引き起こしうる生活障害

- ①行方不明
- ②車

#### B 小売店での生活障害

- ③万引き
- ④不要品の購入
- ⑤その他、お店での問題

#### C 金銭関係での生活障害

- ⑥詐欺の危険
- ⑦財産管理の困難
- ⑧現金管理の困難

#### D 日常生活障害(自宅内)

- ⑨家事が困難
- ⑩家事が困難(火の元)
- ⑪身の回りのことが困難

#### E 暴力・暴言

- ⑫暴力・暴言(家族へ)
- ⑬暴力・暴言(介護スタッフへ)
- ⑭暴力(他の利用者へ)
- ⑮暴力(近隣の人へ)

#### F 暴力以外の行動・心理症状

- ⑯物盗られ妄想
- ⑰幻覚・妄想(物盗られ以外)
- ⑱他の行動・心理症状(自宅内)
- ⑲他の行動・心理症状(近隣とのトラブル)
- ⑳介護拒否

#### G その他

- ㉑親族内のトラブル
- ㉒その他

#### A 自宅外で、命に係わる問題を引き起こしうる生活障害

- ①行方不明
- ②車

#### B 小売店での生活障害

- ③万引き
- ④不要品の購入
- ⑤その他、お店での問題

#### C 金銭関係での生活障害

- ⑥詐欺の危険
- ⑦財産管理の困難
- ⑧現金管理の困難

#### D 自宅外、主には近隣における行動・心理症状

- ⑨暴力(他の利用者へ)
- ⑩暴力(近隣の人へ)
- ⑪物盗られ妄想や、他の妄想・幻覚
- ⑫その他の近隣トラブル

#### E 自宅内での行動・心理症状

- ⑬暴力・暴言(家族へ)
- ⑭暴力・暴言(介護スタッフへ)
- ⑮物盗られ妄想
- ⑯幻覚・妄想(物盗られ以外)
- ⑰他の行動・心理症状など
- ⑱介護拒否

#### F 自宅内での日常生活障害

- ⑲家事が困難
- ⑳家事が困難(火の元)
- ㉑身の回りのことが困難

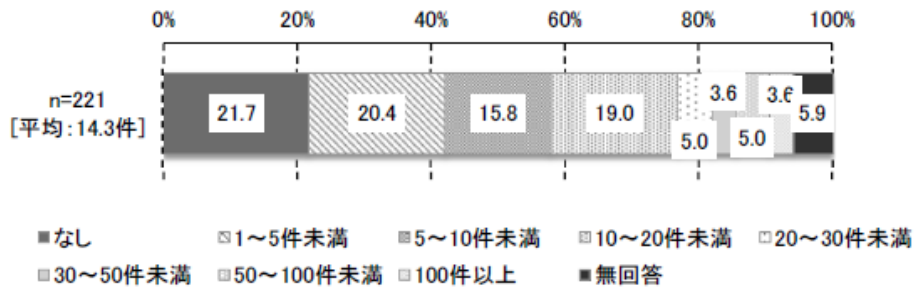
#### G その他

- ㉑親族内のトラブル
- ㉒その他

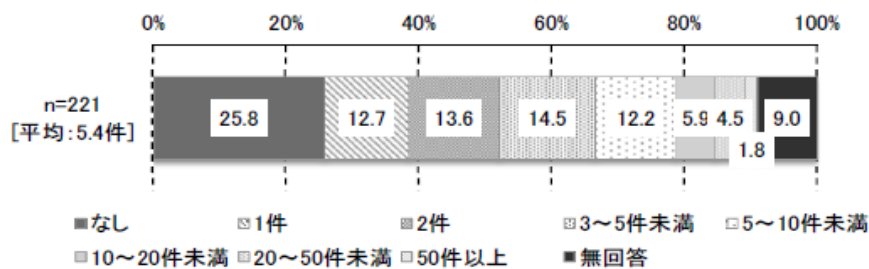
出所)「認知症の行動・心理症状(BPSD)等に対し、認知症の人の意思決定能力や責任能力を踏まえた対応のあり方に関する調査研究事業」(実施主体:国立研究開発法人国立長寿医療研究センター)

(2)小売業の現場における認知症高齢者のトラブル実態やその対応・支援に関する調査

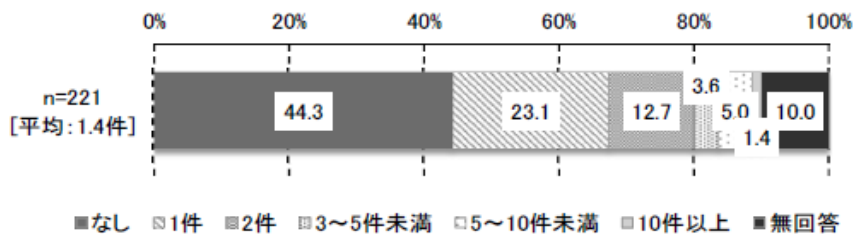
図表 トラブルの件数(過去1年間)



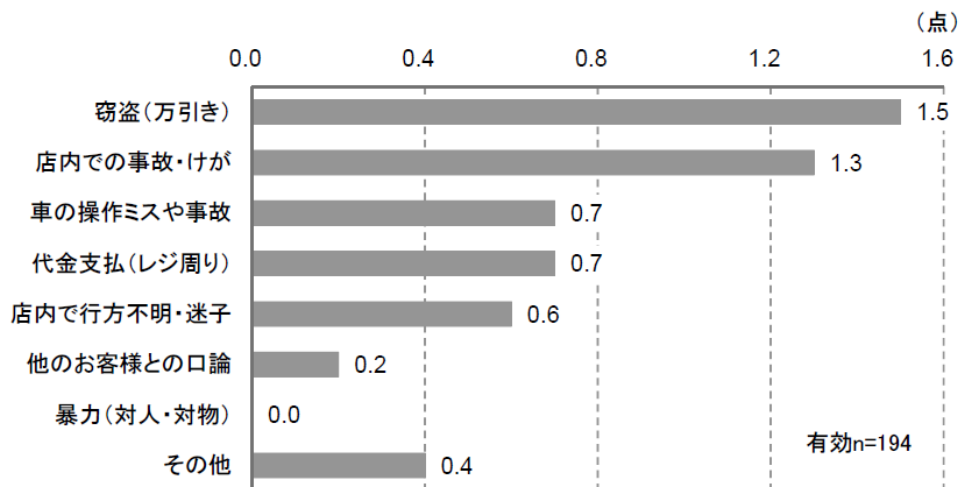
図表 高齢者に関わるトラブルの件数



図表 認知症を疑うトラブルの件数

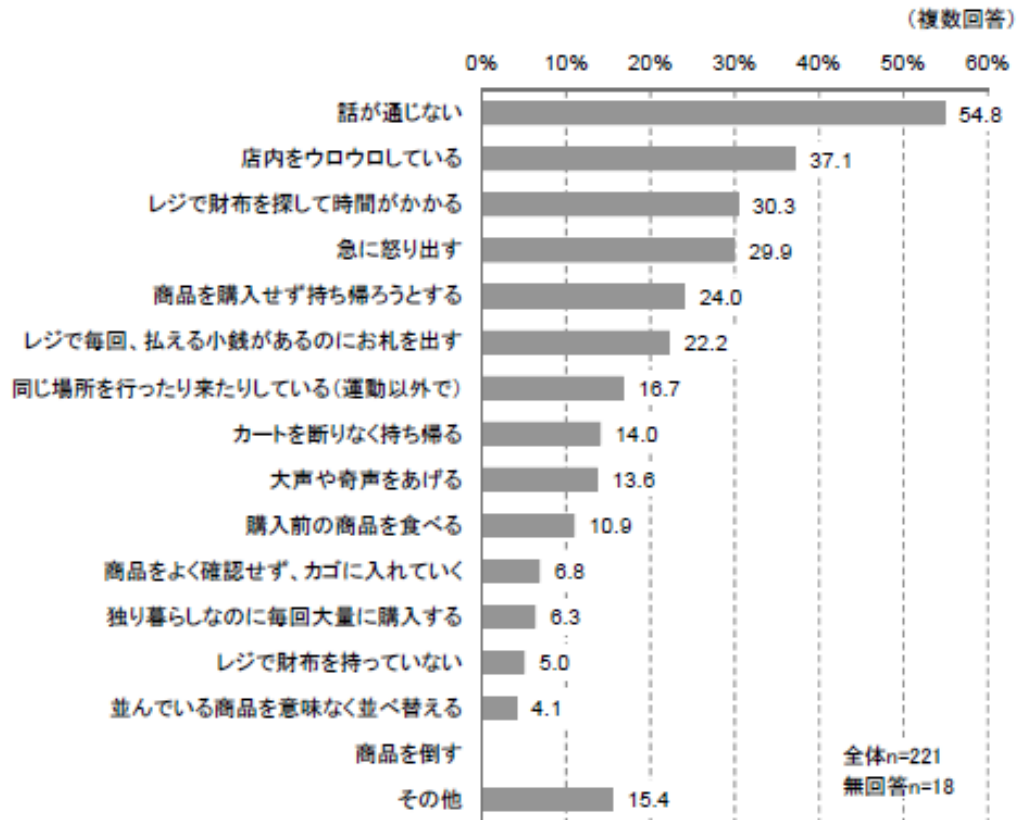


図表 高齢者に多いトラブル

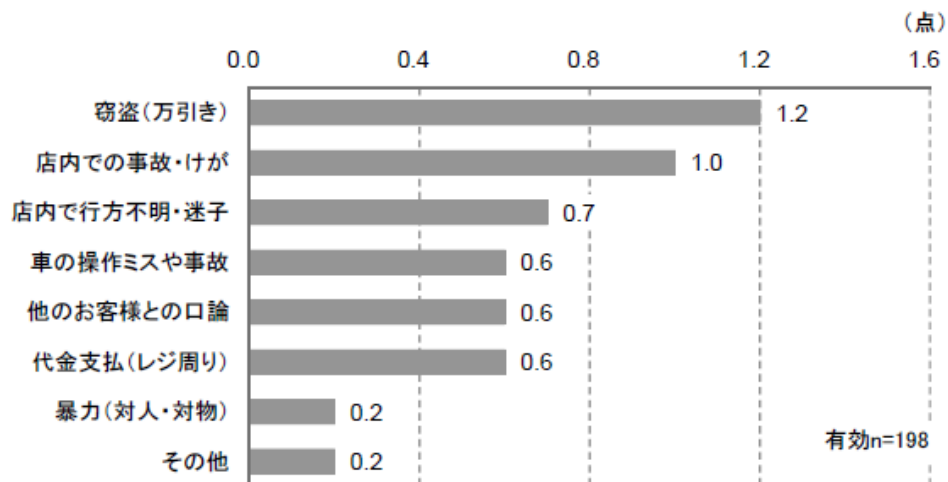


※第1位～第3位までの回答を、第1位に3点、第2位に2点、第3位に1点を付与し、スコア化したもの  
 出所)「認知症の行動・心理症状(BPSD)等に対し、認知症の人の意思決定能力や責任能力を踏まえた対応のあり方に関する調査  
 研究事業」(実施主体:国立研究開発法人国立長寿医療研究センター)

図表 高齢者の様子で“おかしい”と思ったこと(気になったこと)



図表 対応困難の内容



※第1位～第3位までの回答を、第1位に3点、第2位に2点、第3位に1点を付与し、スコア化したもの  
出所)「認知症の行動・心理症状(BPSD)等に対し、認知症の人の意思決定能力や責任能力を踏まえた対応のあり方に関する調査研究事業」(実施主体:国立研究開発法人国立長寿医療研究センター)

図表 実態調査からの問題場面(実態・対応)の類型化(事業所アンケートの類型化)

- A 自宅外で、命に係わる問題を引き起こしうる生活障害**
  - ①行方不明
  - ②車
  
- B 小売店での生活障害 -1 金銭関係**
  - ③万引き
  - ④商品を食べてしまう
  - ⑤不要品の購入
  - ⑥レジ周りの問題
  - ⑦返品や注文
  
- C 小売店での生活障害 -2 対人的な問題**
  - ⑧スタッフとのトラブル
  - ⑨お客さん同士でのトラブル
  
- D 小売店での生活障害 -3 その他**
  - ⑩転倒・体調不良
  - ⑪不潔
  - ⑫大声、興奮、規則が守れず
  - ⑬開店・閉店時間の問題
  - ⑭忘れ物
  - ⑮その他

出所)「認知症の行動・心理症状(BPSD)等に対し、認知症の人の意思決定能力や責任能力を踏まえた対応のあり方に関する調査研究事業」(実施主体:国立研究開発法人国立長寿医療研究センター)